

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらくる 楽さん家 (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年1月24日		～ 令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12世帯	(回答者数) 10世帯
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【小集団】 ・定員4名で職員配置が手厚いため、子どもたちが自分を認めてもらいやすかったり、子どもたちの心身の変化にも気づきやすい。 ・小集団だからこそ、苦手な活動にも参加しやすい。	・感覚遊び、運動遊び、制作活動、ルール遊び等週替わりの活動プログラムを設定している。 ・初めての活動や勝敗のつく活動が苦手な子に対しては、ある程度時間をかけて気持ちが整うのを待ったり、見学することも認めている。	・制作活動では、子どもたちにわかりやすいような工程表を作成し、自分で見て考えながら作れるように工夫していく。 ・集団遊びでは、他者視点が持てたり、勝負に負けても気持ちの切り替えができるよう支援していく。
2	【構造化】 ・個別のスケジュールがあることで見通しを持って過ごすことができ、変更がききやすい。 ・自由遊び時に色別のジョイントマットを使用することにより、自分と他者との境界が視覚的に理解でき、マットをくっつけることで他児との交流もできている。	・個別のスケジュールを呈示し、活動内容や時間等を視覚化し、一人で確認して次の行動に移ることができるように工夫している。 ・タイムタイマーを活用し、活動の始まりと終わりがはっきりわかるようにしている。	・子どもたちの自主性が育つよう支援していく。子どもたちの成長に合わせて支援の量を調整していく。
3	【保護者支援】 ・保護者との情報共有を大切にしている。	・送迎時に活動時の様子(うまくいかなかったこと、本人なりに頑張っけて取り組んでいたこと)を伝えている。 ・園送迎で保護者に直接会えなかった時は、LINEにて写真や動画を送る等して様子を伝えている。	・保護者支援として、面談等の時間を充実させ、子どもたちの発達段階について共通理解を深めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・定員が少ないため、子どもの甘えが出やすい。自由遊びや絵本タイムは一定のルールを決めているため、他児との交流機会を減らしている可能性もある。	・子どもと職員との物理的な距離感が近い。 ・自分の主張がすぐに職員に届きやすい。 ・子どもが活動や遊びに集中できる環境設定を行っている。	・子どもが職員に依存しない距離感を意識しておく。 ・声掛けの質を向上させる。 ・一定の制約のある環境の中でも子どもたち同士の交流が図れるよう、きっかけ作りや介入をしていく。
2	・保護者会等の開催により、保護者同士の交流の機会やきょうだいで同士の交流機会が確保できていない。	・保護者会の開催ができていない。	・事業所の駐車場が狭いため、別会場を借りての保護者会開催や日にちを分散させての参観日の開催を検討していく。
3	・地域とのつながりが少ない。	・駐車場の問題もあり、事業所内で地域住民を巻き込んだイベントを開催しにくい。	・ほうふ福祉まつりへのブース出展やSNS等により、発達障害への理解が深まるよう発信していく。